

意見と私

—よりよい人間関係を築く—

2グループ 小松 実紅（こまつ みく）

1.

わたしにとって大切な社会は、自分にとっても大切な自己主張である、「意見」だ。この講義が始まり、グループに分かれてから留学生の方に「日本人ってどんな印象？」と聞いたら、「あまり自分の意見をはっきりと言わない気がする。」と言っていた。このことについてもっと突き詰めて考えてみたいと思った。

どこの国とか関係なく、自分の意見をなかなか自分の声に出して言うことができない人はいるだろう。しかし、日本ではとくにそのような人が多いのかもしれない。私自身も決して消極的ではないが、授業の話し合いのときや発表のときは頭では自分の意見を考えてはいても、進んで自分の意見を声に出して言わない傾向があると思う。そんな中、グループの留学生の方々はまっすぐに意見をぶつけてきてくれるのだ。それに感化され、私も自然に自分の意見を言えた。この講義のグループ学習によって自分の意見を怖がらずに言うことで、自分の考えを発信でき、「私」を全面的に出していけることを学んだ。そして自分が持つ意見を発信することは、「私」という人間の考え方や感性などを少しずつでも他者に知ってもらえ、理解してもらえる方法としてとても重要な手段だと改めて感じた。

2.

私は初めは「食文化と私」というテーマでレポートを書こうとしていたが、途中でテーマを変更した。散歩では千秋公園と留学生会館と大学の研究棟と駅前に行った。2回の散歩を通して、グループの人たちと打ち解け、とても仲良くなれた。散歩の行く先をみんなですっかり意見を言い合いながら決めることができた。韓国と台湾の料理を食べることができてよかった。韓国のものは辛いけどうまみがあって、台湾のものは日本の味付けにはない新しい味でおいしかった。色んな場所でたくさん写真を撮り、一緒にお昼ご飯を食べていい思い出をつくれた。本当に楽しかった。

3.

話し合いでは、初めはただ漠然と「意見ということについてどう思いますか？」という切り口で始めたのだが、それでは抽象的すぎて難しいと思ったので、「授業や講義など、大人数の中で挙手をして発表することについてどう思うか、それをできるか。」ということについて話し合った。私たちのグループは韓国人のジへさんと台湾人のていいさんと日本人の夏海さんと私の4人だ。夏海さんと私はそのような場で自ら進んで挙手はしないという意見になった。そこから話し合っているうちに、「人数や状況など、場合によると思う。」という意見が出て、それについても話し合ってみた。

ここで、おもしろいことに見事に意見が分かれた。

大人数の中での意見発表や話し合いはあまり好まない。少人数で話し合い、意見を出し合うグループ活動を好む。(夏海さんと私)

- ・大人数で行う授業や講義よりも、少人数で行うことのできるグループ活動のほうが意見を言いやすい。
- ・グループ活動は少人数で行われるので、自分の意見を言わざるを得ない状況である。大人数の中で積極的に意見を言わないのは、何も考えておらず無関心なわけでは決してなく、頭の中ではきちんと考えて自分の意見を用意している。ただあまり注目を浴びたくないし、大人数の人の前で間違っていることを言わないか不安なだけであるのだ。その点グループ活動では人数が少ない分そのような不安は軽減されて、怖がらずに意見を言える。
- ・人数が少ないほうが他人任せの学習にならないと思う。大人数の授業や講義であると、少なからず「誰かが意見を発表してくれるだろう。」という受動的な授業になってしまうことが多いと思う。
- ・グループのみんなの意見を入れながらうまくまとめられる。

大人数の中での意見発表や話し合いはとくに嫌ではないが、少人数で行うグループ活動は好まない。(ジへさんとていいさん)

- ・少人数で行うグループ活動だと、意見が出すぎてしまう。激しく意見が飛び交う。それによって、グループでひとつの意見にまとめることが難しくなる。
- ・グループ活動はやる気があってどんどん意見を出す人も、やる気がなく人が出した意見を頼りにして話し合いに参加しているような人もいる。しかし授業の評価はあくまでもグループ単位の評価となるので、やる気がある人に不満が生じることがある。
- ・少人数で行うグループ活動よりだったら一人で作業をするほうがいいかもしれない。しかしそれは、グループや話し合いの雰囲気にもよるので、一概に少人数グループ活動は好まない、というわけではない。

このような話し合いとなった。話し合いを通して、さまざまな視点から「意見」について改めて考えることができた。さまざまな視点とは、自分の意見を持ってそれを発信できるかできないかだけでなく、意見を発信する場面の人数や、意見を発表するとき、特にグループ活動のときのメンバーにも好みがあるということだ。

グループのほかの人は、「日本人は”意見を直接主張しない”人の割合は多いと思う。」というような意見をもっていた。理由として、それが礼儀だと思っている人が多いと思う、とのことだった。確かに、そう言われると自分がなぜ大人数の発表のような場であまり意見を言わないかを今までそれほど考えたことがなかった。私の場合は、1対1で相手と話している時や、普段友達と話している時などのときには多少礼儀として直接はっきりとは自分の思ったことや意見をあまり言わないようにしている。しかし、大人数での発表や会議

の場では礼儀というよりも、人前で発表することは緊張するし、注目され、的外れなことを言ってしまったら恥ずかしいという気持ちがあるからなかなか意見を主張できない。また、「自分の意見を持って、それを発信するのはとても重要なことであるが、それと同時にとても難しいことだと思う。」という意見もあった。

4.

私は、大人数の前で自分の意見を発信することはあまり得意ではないが、家族と話したり友達と話したりすることは大好きである。ちょっとしたことでも話をして、それを「うんうん。」とうなずきながら聞いてくれるととても嬉しくなる。自分の考えていることや意見を相手に伝えて、相手がそれをちゃんと聞いてくれていると、大げさかもしれないが「私」という人を一生懸命に理解してくれようとしているような気がするからだ。人と話すことが好きで、同時に人の話を聞くことも好きだ。人の意見や考えを聞くことで、その中から新しい発見をしたり自分とは違う価値観を見つけて、その違いを理解したりすることもできる。自分のことも知ってもらいたいし、相手のことも知りたい。そのためにはたくさん話すことが一番いいと思う。

この講義では、グループ内ですごくたくさん意見交換ができたと思う。最初、私はほとんど意見を言えなかった。しかし、徐々に自分の意見や考えを言えるようになった。それはグループの人たちがたくさん意見を言ってくれていたから、私も自然に意見を発信できるようになったのだと思う。例えば、私の家族についてグループの人たちに話す機会があったので説明していた。しかしあまりうまく説明できてなかったようで、何度も質問が来た。「それってどういうこと?」「つまり〇〇ってこと?」というように。最初はグループの人たちは疑問を持っていた。もちろん私の話に対して意見を言ってくれたが、それだけでなく質問もどんどんしてきてくれることで話を引き出してくれて、私自身もより詳しく話ができ、しっかりと話を理解してもらえてとても満足した。初めて会った状況から、グループ活動や授業の一環の散歩を通してここまで打ち解けられたのはとてもうれしいことだ。グループの人たちと家族の話をしたときは、みんなの育ってきた環境や家庭を知ることができた。学校生活でのその人しか知らなかったが、家でのその人のことを少しだと思えることができて、新たな一面を見れたような気がしてなんとなく嬉しかった。

私は一人では絶対に生きていけない。だから、広い意味で人とのかかわりはとても大切なことだと思う。その中で、人間関係をよりよくするためには、自分のことを伝え、きちんと知ってもらうことが必要とされる。そのための手段はたくさんあると思うが、私の考える手段の大部分を占めることは「意見」を発信すること、交換することである。

これからは、自分の意見に自信を持って、どのような場でもしっかりと自分の考えを他者に発信していきたい。自分の意見を言って、あとで「あのとき言えばよかった。」など後悔しないように生きていきたい。

5.

「社会」という言葉は人によってその言葉の意味や捉え方が違ってくると思う。私にとっての「社会」は、友達や家族や近所の人などたくさんの人と関わっていく中で、自分の考えを相手に伝え、また、相手の話も聞いてたくさん会話して、一緒に過ごして、その人と私にしか築くことのできない関係を築いていくことだと考える。「社会」は、相手と自分の力で作り上げることができるものだ。大学に入って、たくさんの人と出会った。この人たちとの関係はこれから私と相手で作っていく。この講義で一緒のグループになったメンバーとも、このメンバーとでしかできない関係が築けたと思う。私がこれから生きていくうえで人との繋がりがとても大切になっていくはずだ。

6.

課題の説明が少し分かりづらかった。